

J R東海労申第15号
2018年9月13日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 金子 慎 殿

J R東海労働組合
中央執行委員長 木下 和樹

2018年度基本協約・協定改訂に関する再申し入れ

会社は9月13日、2018年度基本協約・協定改訂第8回団体交渉において、最終回答を行った。

会社は、今交渉を「労使対等の立場で議論する」としつつも、全てにおいて一方的な認識を組合側に押し付けている。現場で汗を流し働く組合員の努力によって、J R東海会社は、過去最高益の記録を更新し続け、会社も「将来にわたって社員が誇りとやりがいを持てる、働きやすい職場づくりを目指す」と冒頭で挨拶しておきながら、組合の要求項目は何ら解決していない。また、今後少子高齢化が進み、高齢者の労働力が貴重である認識は一致するものの、J R東海労の要求に何ら答えておらず極めて不誠実なものであるといわざるを得ない。

今回の会社回答では、「会社はこれまでも、社員の長期的な雇用を前提として各種制度の充実に努めて参りましたが、・・・」といているが、現場で汗を流しながら働いている組合員は、正直、社員を長期的な雇用をしてもらおうと考えている会社とは感じていない。

口先だけは社員受けの良い言葉を発するだけではなく、現場で汗を流す組合員の切実な声に耳を傾け、「誰もが働きやすい会社だ！」と思える協約・協定を作成すべきである。

従ってJ R東海労は、2018年度基本協約・協定改訂について再度、下記の通り申し入れるので、誠意ある回答を行うこと。

記

以 上